

最大限 T_EX 入門

北海道大学理学部 ひとみさん

令和 2 年 4 月 9 日

T_EX 概観

T_EX の使い方

L^AT_EX の書き方

エラーへの対処

T_EX のディレクトリ構成

[改訂第 7 版] L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門 (奥村晴彦・黒木祐介)

- 3 年毎に改版
(第 8 版は 2020 年?)
- 「とりあえずこれを読め」



👤 美文書何章に記述があるか適宜参照します 👤

やらない話

- 文書を書くのに使う^{コマンド}命令
(美文書 3, 5, 6, 7-11 章の大半)
- ^{コマンド}命令の作成
(美文書 4 章)
- 🍷 TeX 言語 🤢

発表資料は <http://www.circle9.work/tex/> で公開
ソースも公開しています

TEX 概觀

👤 美文書 1 章 👤

TeXでできること、特徴

文字を並べた PDF を作ることができる。

TeXでできること、特徴

文字を並べた PDF を作成することができる。

- きれいな数式

$$\int_0^{\infty} \frac{\sin x}{\sqrt{x}} dx = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{(2k)!}{2^{2k(k!)^2}} \frac{1}{2k+1} = \frac{\pi}{2}$$

- 相互参照
- 処理の自動化
- フリーソフト
- 様々な OS で利用可能
- 実体はテキストファイル

TeX でできないこと

- 見たまま編集

Word などを使えば良い、もしくは LyX?

- 図の描画

ほかソフトで作ってから埋め込めば良い、もしくは TikZ?

- フォントを自在に扱う

LuaTeX や XeTeX で使える fontspec パッケージを使えば.....

TeX とは何か

- 1978 年に Donald E. Knuth が発表
 - 相当に古い
- 組版システム
 - 組版するためのソフトウェア
 - 組版するためのプログラミング言語

T_EX とは何か

- 1978 年に Donald E. Knuth が発表
 - 相当に古い
- 組版システム
 - 組版するためのソフトウェア
 - 組版するためのプログラミング言語
- L^AT_EX
 - T_EX とは別物
 - T_EX のマクロ体系 (フォーマット)

$\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の仲間にはたくさんある (ナトカ $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$)

- 処理系..... $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ (ソフトウェア) を拡張したもの
 ϵ - $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, pdf $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, X \exists $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, Lua $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, p $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, up $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ など
- フォーマット
L A $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, plain $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$, Con $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ t など

全部まとめて $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ と呼ぶことも多い

T_EX ディストリビューション

T_EX に関する成果物は、CTAN に集められる

- <https://www.ctan.org>
- ボランティアで成り立っている

CTAN から様々な T_EX ディストリビューションへ

- T_EX Live (<http://www.tug.org/texlive/>)
- W32TeX (<http://w32tex.org/>)
- MiK_TE_X (<https://miktex.org>)¹

¹日本語できない模様

T_EX ディストリビューション

T_EX 本体やパッケージ以外にも、関連するバイナリも収録されている

- dvi ウェア (後述)
- kpathsea (後述)
- texdoc

texdoc → ドキュメントを検索するコマンド

例: `texdoc latex`

```
texdoc platexsheet-jsclasses
```

でコマンド一覧を表示

ワトソン氏 (朝倉卓人) 作成

TeX Live について

最も普及している TeX ディストリビューション

膨大な数のパッケージやバイナリが含まれる

晩春に名前が変わる大型アップデート

2 月頃に更新停止 (frozen) ・次年度版の pretest

2019 年 4 月 31 日 TeX Live 2018 → TeX Live 2019

バイナリの更新は原則大型アップデート時のみ

パッケージ (テキストファイル) の更新は frozen 時以外はいつでも

大型アップデート時はインストールし直す必要

TEXの使い方

👤 美文書 2 章 👤

TeXのインストール

Windows なら W32TeX
それ以外なら TeX Live をインストール

TeX Wiki²で調べてください。

インストールには数時間かかります。

²<https://texwiki.texjp.org>

TeX Live のアップデート

(TeX Live をインストールした場合)

```
sudo tlmgr update --self --all
```

上のコマンドで TeX Live をアップデート

定期的に行おう

年度が変わる大型アップデート時には再インストール

自分で書いた TeX ソースを、TeX 処理系に処理させることで、PDF ファイルを得る。

³新しい処理系には、直接 PDF を出力するものもある。
例: pdfTeX, LuaTeX, XeTeX

自分で書いた TEX ソースを、TEX 処理系に処理させることで、PDF ファイルを得る。

のだが

³新しい処理系には、直接 PDF を出力するものもある。
例: pdfTEX, LuaTEX, XeTEX

自分で書いた TeX ソースを、TeX 処理系に処理させることで、PDF ファイルを得る。

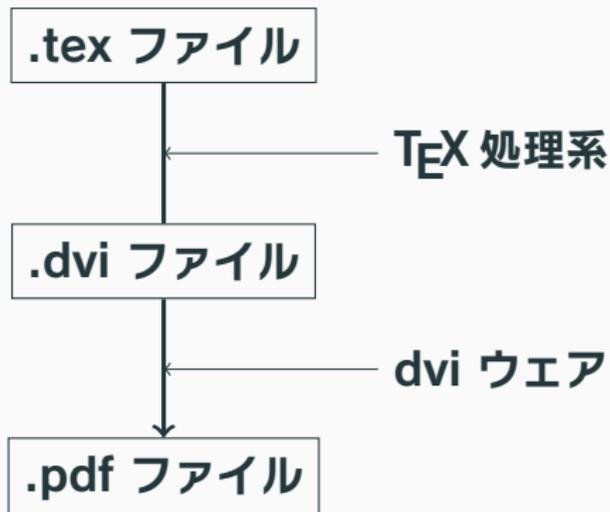
のだが

歴史的経緯で、TeX 処理系は、PDF ファイルではなく、**dvi ファイル**を出力する³。

出てきた dvi ファイルを dvi ウェアで処理することによって、最終的な PDF を得ることができる。

³新しい処理系には、直接 PDF を出力するものもある。
例: pdfTeX, LuaTeX, XeTeX

TEXの使い方



dvi ファイルを pdf ファイルに変換するソフトウェア⁴

- dvi_{ps}pdf, dvips など

使う処理系、フォーマット、dvi ウェアで、tex ファイルの書き方が変わるので注意

⁴PDF 以外にも、PostScript や、各種画像ファイルに変換するものもある

日本で一般的な方法

日本では

- p \LaTeX + dvipdfmx
- up \LaTeX + dvipdfmx

あたりが主流

Lua \LaTeX も広まってきている

日本で一般的な方法

日本では

- $\text{p}\text{L}\text{A}\text{T}\text{E}\text{X} + \text{dvipdfmx}$
- $\text{up}\text{L}\text{A}\text{T}\text{E}\text{X} + \text{dvipdfmx}$

あたりが主流

$\text{Lua}\text{L}\text{A}\text{T}\text{E}\text{X}$ も広まってきている

このスライドでは、主に $\text{p}\text{L}\text{A}\text{T}\text{E}\text{X} + \text{dvipdfmx}$ を例にして話す

L^AT_EX の書き方

👤 美文書 3 章 👤

Listing 1: sample.tex

```
1 \documentclass[12pt,dvipdfmx]{jsarticle}
2 \usepackage[T1]{fontenc}
3 \usepackage{graphicx,xcolor}
4 \usepackage{otf}
5 \usepackage{newpxtext,newpxmath}
6 \usepackage{amsmath}
7 \usepackage[a6paper]{geometry}
8 \begin{document}
9 吾輩は\TeX である。名前はまだない。
10 \[e^{i\pi}=-1\]
11 \end{document}
```

BOM なし UTF-8 で保存しましょう

コマンドラインで以下を実行

```
platex sample
```

```
dvipdfmx sample
```

吾輩は TEX である。名前はまだない。

$$e^{i\pi} = -1$$

コマンド
命令

`\` で始まる、英文字（と和文文字）の列

もしくは `\` のあとに数字か記号ひとつ

`\TeX` や `\^` など（コントロールワード 制御語とコントロールシンボル 制御文字）

環境 `\begin{ナトカ}` と `\end{ナトカ}` で囲まれたもの

コメント `%` から行末まではコメント扱い（無視される）

特殊な文字

以下の文字は特殊文字

`% \ ^ _ ~ { } # & $`

コマンド 命令についての注意

- ^{コマンド}命令の引数は { } で括る
- オプションな引数は [] で括る

{ } はカッコの対応を確認されるが、
[] はカッコの対応を確認しない

例:

`\lstinputlisting[caption=[1]]{foo.tex}` は
caption=[1 だけが [] に入っている判定
→ [] に含めたい全体を { } で括ると解決
`\lstinputlisting[{caption=[1]}]{foo.tex}`

```
1 % クラスファイル( jsarticle.cls )を読み込む
2 \documentclass[dvipdfmx]{jsarticle}
3
4 % プリアンブル
5 %   パッケージ( ナトカ.sty )の読み込みや
6 %   文書全体の設定
7
8 \begin{document}
9 %   文書本体
10 \end{document}
```

```
\documentclass[dvipdfmx]{jsarticle}
```

クラスファイルを読み込む → 版面構成の定義など
実体は `natoc.cls` というテキストファイル

主要なクラスファイル

- `jsarticle`, `jsreport`, `jsbook` (新ドキュメントクラス)
- `jlreq` (日本語組版処理の要件⁵対応)
- `beamer` (スライド用 日本語するには工夫が必要)
- `jarticle`, `jreport`, `jbook` (s なし) は非推奨

⁵<https://www.w3.org/TR/jlreq/ja/>

```
\documentclass[dvipdfmx]{jsarticle}
```

[] 中はオプション設定

フォントサイズ、見開きの設定など

```
\documentclass[12pt,dvipdfmx]{jsarticle}
```

必ず使う dvi ウェアをオプションに設定する

```
\begin{document}  
    ⋮  
\end{document}
```

文書本体は `\begin{document}` と `\end{document}` の間に書く

打ち込んだ文字がそのまま出力される（特殊文字は除く）

命令を利用できる

文書を書くときの注意

改行の扱い

- 改行は空白扱い
- 和文文字直後の改行は無視（空白にもならない）
- 連続した改行 → 改段落
- % は改行文字も含めて、行末まで無視する
→ 空白は入らない

メール的なフォーマットで書ける

1行が長くなったら改行、改段落は空行

文書を書くときの注意

コントロールシークエンス

制御 綴 や空白の扱い

- 空白はいくつつなげても 1 つに吸収される
- 行頭行末の空白は無視される
- `_` や `~` で空白を出力できる (`~` は行分割されない)
- コントロールワード 制御 語 コントロールワード 直後の空白は コントロールワード 制御 語 の区切りでしかない
→ 無視される
- コントロールシンボル 制御 文 字 直後の空白は無視されない

`\TeX_Live` → `TEXLive`
`\TeX_Live` → `TEX Live`

`\TeX_{LL}Live` → `TEXLive`
`{\TeX}_LLive` → `TEX Live`

文書を書くときの注意

その他の注意、使える命令、環境は

- `texdoc platexsheet-jsclasses`
- 美文書作成入門

を参照

ググるより先に上を読みましょう

ググって出てくる情報は軒並み古くて怪しい⁶

⁶ディスプレイ数式を `$$ ~ $$` で囲んだり、`\begin{eqnarray}` を使ったり

`\documentclass` から `\begin{document}` の間
→ **プリアンブル (preamble)**

パッケージの読み込み・文書全体の設定をする

```
\usepackage[a4paper]{geometry}
```

→ `geometry` パッケージを、`a4paper` オプション付きで読み込む

本文を書くことはできない

逆に、プリアンブルでしか使えないコマンドもある

```
\usepackage など
```

パッケージとは

様々な便利機能を提供

他のプログラミング言語で言うところのライブラリ

実体は、`hatカ.sty` というテキストファイル

例: ゆきだるま 🌨 を書きたい!

→ `scsnowman` パッケージ

→ `\usepackage{scsnowman}`

→ `\scsnowman[scale=3,hat,arms,buttons]`



素敵!

パッケージの使い方

1. 用途からパッケージを探す

ググるしかない もしくは CTAN でググる⁷

2. プリアンブルで

`\usepackage[オプション]{パッケージ名}`

3. 使う

4. 使い方がわからなくなるので `texdoc パッケージ名`

⁷英語なので厳しい; ググるを誤用してるのは承知です

おすすめプリアンブル

```
1 % フォントエンコード( 文字化けしないように )
2 \usepackage[T1]{fontenc}
3 % 図の挿入、色を扱う
4 \usepackage{graphicx,xcolor}
5 % フォントをアイコンジにしてくれる
6 \usepackage{otf}
7 % フォントを変更( デフォルトはサイズ指定に不具合 )
8 \usepackage{newpxtext,newpxmath} % Palatino
9 %%% \usepackage{newtxtext,newtxmath} % Times
10 %%% \usepackage{lmodern} % Latain Modern
11 % 数学するなら必要
12 \usepackage{amsmath}
13 % 用紙サイズの設定
14 \usepackage[a4paper]{geometry}
```

LaTeX を理解するまでは、これをそのまま使おう

書き方まとめ

```
1 \documentclass[12pt,dvipdfmx]{jsarticle}
2 % プリアンブル
3 \usepackage[T1]{fontenc}
4 \usepackage{graphicx,xcolor}
5 \usepackage{otf}
6 \usepackage{newpxtext,newpxmath}
7 \usepackage{amsmath}
8 \usepackage[a4paper]{geometry}
9
10 \begin{document}
11 ドキュメント本文
12 \end{document}
```

エラーへの対処

👤 美文書 2 章 9 節 👤

⚠️ご注意ください⚠️



**エラー対処が上手かどうかで
作業効率が激変します**



エラーに遭遇する

$\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ はプログラミング言語なので、書き方を間違えるとエラーが出る

`\TEX` と書いてしまうと.....

エラーに遭遇する

T_EX はプログラミング言語なので、書き方を間違えるとエラーが出る

`\TEX` と書いてしまうと.....

! Undefined control sequence.

1.3 `\TEX`

エラーに遭遇する

$\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ はプログラミング言語なので、書き方を間違えるとエラーが出る

`\TEX` と書いてしまうと.....

! Undefined control sequence.

1.3 `\TEX`

「？」と聞かれるので、   のどれかを押す

エラーが出たら



処理を中断して終了



処理を継続、ログは標準出力しない



処理を継続、再びエラーが出ると止まる



を数回連打するのがおすすめ

大抵、複数のエラーが混入しているため

連続して 5 回以上エラーが出てきたら  するべし

? 以外のプロンプトの場合

Enter file name:

\usepackage でパッケージ名を間違えたときに出がち

 を押して Enter

*

\end{document} を忘れたときに出がち

1. \stop と打って Enter
2. \aaa (未定義の コントロールシーケンス 制御 綴) を打って Enter
→ ? のプロンプト → 
3.  

エラーメッセージの見方

! You can't use 'macro parameter character #' in horizontal mode.

1.3 O-oooooooooooo #

AAAAE-A-A-I-A-U-

?

エラーメッセージの見方

! You can't use 'macro parameter character #' in horizontal mode.

1.3 O-oooooooooooo #

AAAAE-A-A-I-A-U-

?

! エラーメッセージ

1. 行数 $\text{T}_\text{E}\text{X}$ が読み込んだもの

まだ読み込んでいないもの

エラーが出た行に戻って治せばいいのだが.....

エラーへの対処

大体のエラーの原因

- ・ コントロールシーケンス 制御 綴 の綴りのマチガイ
- ・ 環境の閉じ忘れ
- ・ ものの不均衡 (`{ }`、`$ $`、`\left \right` など)
- ・ コマンド 命令の用法のマチガイ

エラーが起きた行付近で上がらないか確認

コマンドの用法のマチガイ →

`texdoc <パッケージ名>` で確認

対処しにくいエラー

おさらい

\LaTeX は \TeX のフォーマット (マクロ体系)

→ \LaTeX レベルのエラーと、 \TeX レベルのエラーがある

起きたエラーによっては、原因が特定しにくい

例: ! Missing number, treated as zero.

対処しにくいエラー

おさらい

\LaTeX は \TeX のフォーマット (マクロ体系)

→ \LaTeX レベルのエラーと、 \TeX レベルのエラーがある

起きたエラーによっては、原因が特定しにくい

例: ! Missing number, treated as zero.

処理中に外部ファイルを読み込むこともある

→ 行番号が、どのファイルの行番号かわからなくなる

エラーを起こさないために

- タイプセットを細かく行う
- 開いた環境はすぐ閉じる
- 全角空白「」を使わない
段落頭の字下げは `\parindent` で設定
欧文クラスで、一番最初のパラグラフを字下げしたい場合 → `indentfirst` パッケージ
- `\verb` 命令もなるべく避ける
コマンド
命令の引数にあるとエラー (`\verb` の呪い)

エラーを起こさないために

- タイプセットを細かく行う
- 開いた環境はすぐ閉じる
- 全角空白「」を使わない
段落頭の字下げは `\parindent` で設定
欧文クラスで、一番最初のパラグラフを字下げしたい場合 → `indentfirst` パッケージ
- `\verb` 命令もなるべく避ける
コマンド
命令の引数にあるとエラー (`\verb` の呪い)

それでも意味不明なエラーが起きる

パッケージの衝突

```
1 \documentclass{jsarticle}
2 %%% 略
3 \usepackage{mathabx} % いろんな記号を使いたい
4 \usepackage{yhmath} % 大きいカッコを綺麗にしたい
5 \begin{document}
6 \[e^{i\pi}=-1\]
7 \end{document}
```



! LaTeX Error: Command `\iint` already defined.
Or name `\end...` illegal, see p.192 of the manual.
1.645 ...d{\iint}{\DOTSI\protect\MultiIntegral{2}}

パッケージの衝突

```
1 \documentclass{jsarticle}
2 %%% 略
3 \usepackage{mathabx} % いろんな記号を使いたい
4 \usepackage{yhmath} % 大きいカッコを綺麗にしたい
5 \begin{document}
6 \[e^{i\pi}=-1\]
7 \end{document}
```



! LaTeX Error: Command `\iint` already defined.
Or name `\end...` illegal, see p.192 of the manual.
1.645 ...d{\iint}{\DOTSI\protect\MultiIntegral{2}}

mathabx と ymash が同じ^{コマンド}命令を定義 → エラー

パッケージを読み込む順番を変えたら誤魔化せる場合も

→ 読み込む順番を変えてみる

→ どうしようもなければ諦める

パッケージが日本語対応してなくてエラーが起きる場合も

→ (u)pL^AT_EX なら plautopatch パッケージ⁸を試してみる

⁸<https://aminophen.github.io/slide/hytexconf18.pdf>

エラーが解消できなくてどうしようもないときは

とりあえずエラーメッセージでググってみる

これで解決できたら苦労しないんだよなあ わかりにくいエラーメッセージが嫌ならば、SATySFj.....?

わからなければ詳しい人に聞く

TeX Forum⁹ で質問 Twitter でつぶやくのも実は有用

実はバグを踏んでいる可能性も

⁹<https://oku.edu.mie-u.ac.jp/tex/>

わかりにくいエラー①

[a] 真鍋 \\ [b] いつき

→! Missing number, treated as zero.

\\ (強制改行) 命令は、実はオプション引数をもつ

→\\[<長さ>]

\\{} のように {} で区切ると解決

[a] 真鍋 \\{} [b] いつき

→[a] 真鍋

[b] いつき

わかりにくいエラー②

```
\section{$\overrightarrow{\mbox{ぶーん}}$}
```

→! Illegal parameter number in definition of \reserved@a.

エラーが起きる原因 → 🤔 10

`\section` や `\caption` で変なエラーが出たら、
引数に入ってるヤバそうな命令に `\protect` を前置

```
\section{$\protect\overrightarrow{\mbox{ぶーん}}$}
```

→ $\overrightarrow{\text{ぶーん}}$

¹⁰`\section` の引数は動くので、脆弱な`\overrightarrow` は保護しなければならない

TEXのディレクトリ構成

 美文書 付録 B 3 節 

TEX 関連ファイルを入れるディレクトリ構成

TEXMF ← TEX+ METAFONT¹¹

複数の TEXMF ツリーを使い分けるのが主流
多重 TEXMF ツリー

確認方法: `kpsewhich -var-value TEXMF`

¹¹METAFONT は Knuth が作ったフォント記述言語

多重 TEXMF ツリーの利点

ディストリビューションが用意したファイルと、自分がインストールしたファイルを分離できる

ディストリビューションを更新しても、自分のインストールしたファイルは削除されない

ディストリビューションが用意したファイル

→ `kpsewhich -var-value TEXMFDIST`

自分がインストールするファイル

→ `kpsewhich -var-value TEXMFLOCAL`

全ユーザーが使える

→ `kpsewhich -var-value TEXMFHOME`

そのユーザーが使える

TEXMF ツリーからファイルを検索する

kpathsea ← Karl Berry 氏によって作られた path searching

例: `kpsehwhich hmtrump.sty`

→/usr/local/texlive/texmf-local/tex/latex/local/hmtrump.sty

TEXMF ツリーに作られた ^{ファイル一覧} `ls-R` を見て検索する

TEXMF ツリーに変更 → ^{ファイル一覧}Is-R を更新する必要¹²

```
sudo mktexlsr
```

sudo tlmgr update --self --all 後も必要だが、

最近では tlmgr が自動でやっているっぽい

¹²Is-R を使わない運用方法もあるらしいですが、やったことがないのでわかりません

パッケージをインストールする

ディストリビューションに含まれないパッケージを使いたい

→ 自分で TEXMF ツリーに入れる必要

作業ディレクトリに置いてもよいけれども

正しい場所に入れなければ正常に使えない

パッケージをインストールする場所

かなり複雑なので **TeX Wiki¹³参照**

中身を覗いてみればなんとなくわかる

まずはパッケージドキュメントを確認

あまり失敗しない方法

ドキュメントに記載がない場合

- ドキュメントは `$TEXMFLOCAL/doc/latex/パッケージ名`
- その他は `$TEXMFLOCAL/tex/latex/パッケージ名`

にディレクトリを作って、コピー

フォント関連などはもっと複雑で、上記の通りでは無理です.....

¹³<https://texwiki.texjp.org/?TeX%20> のディレクトリ構成

とりあえず美文書は読んでください

もっと詳しく知りたい場合

- **T_EX Wiki**

<https://texwiki.texjp.org>

- **Acetaminophen's diary**

<http://acetaminophen.hatenablog.com>

以下のブログは、もっと沼にハマりたい人向け

- **ラングラグー**

<https://blog.wtsnjp.com>

- **マクロツイーター**

<https://zrbabbler.hatenablog.com>